

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
1. 地域の教育力の向上（地域連携事業の推進） ①小中学校等との協働事業を推進する ②地域の小中学校と生徒間交流を図る ③地域を教材とした探究的・体験的学習活動を行う	・教育力向上推進事業（協議会、研究授業）	・協議会や研究授業、公開授業によって、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	73% A	成果：本校の45名の教員が輪島中学校の授業を参観し、中学校からも33名の教員が本校の授業を参観した。また、中高教員による「ICTの活用」をテーマとした研究授業・研究協議会を通じて地域の教育力の向上を図った。中高・市教委等との協議会を2回開催し、相互理解を深めた。 課題：中高教員による研究授業や研究協議会を継続、発展させていくこと。 改善策：来年度は「家庭学習時間の確保」を研究テーマとして設定し、中高で研究協議をすすめる。
	・挨拶指導（小学校） ・学習交流会（中学校） ・キャリア教育講演会（中学校）	・学習交流やイベント参加生徒のうち、地域に貢献でき、自分も成長できたと感じた生徒の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	85% A	成果：地域のイベントやボランティアに参加した多くの生徒は、地域に貢献できたと感じている。特に、中学生との学習交流会やキャリア教育講演会、小学生への挨拶指導に参加した生徒は、「教える」という体験を通して達成感を得、自己を成長させたと感じている。 課題：より多くの生徒が地域との交流に参加し、地域貢献を通じて自己を成長させる機会を提供すること。 改善策：①地域との連携を深め、交流事業を8回以上設定する。 ②より生徒の成長に繋がるよう、事業等の質の改善を図る。
	・地域調べ学習 ・インターンシップ ・講演会 ・朝市出店販売 ・実践的英語講座	・積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 36% B 51% A+B 87%	成果：地域調べ学習・インターンシップ・朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まった。地域調べ学習と成果発表会では、地域の課題解決策に向けて深く探究し、地域に対する課題意識を高めることができた。 課題：探究心を高め、より地域理解が深まるよう、指導計画を改善すること。 改善策：①指導計画の中に、生徒が主体的に取り組む場を増やす。 ②日々の教育活動の中で、課題解決のために思考し発表する機会を設ける。
学校関係者評価委員会評価	①小中学校等と協働して研究授業や協議会を積極的に組織していることは評価される。特に輪島中学校との授業参観に7割を超える両校教員が参加し、互恵的な関係を構築できていることも高く評価される。また、単なる相互参加だけでなく、ICT活用や家庭学習を活かした反転学習など焦点化した協議会を行政も交えて充実していくことを更に期待したい。②小学生への挨拶指導を行ったり、中学生に指導する機会を設けたりすることで、キャリア教育や、自己充実感の向上の機会を設けている点が評価される。③地域に関して課題を見出し、調査を行い、データに基づき解決策を考察し、その成果をポスターセッションで発表するという探究的なプロセスを通して、汎用的資質を伸ばし、能力を育成しようとしており、評価できる。実践的英語講座など、地域課題とグローバルな視点を融合している点も高く評価できる。総じて、重点目標1に関して、地域全体の教育力の向上に向けて、高等学校が推進役となり、高い達成度を挙げており、十分満足な状況である。			
評価結果を踏まえた改善策	①「家庭学習時間の確保」を研究テーマとして、中学校、市教委と協働した事業を推進する。 ②地域との連携を深めるためキャリア意識や自己肯定感の向上に繋がる交流事業を推進する。 ③課題解決のために思考し、表現する機会を設定し、汎用的な資質能力を育成する。			

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2: 学習意欲と深い思考力の向上（アクティブラーニングの推進） ①個に応じた学習指導の充実と発展的学力を養成する ②ICTを利活用した授業改善を行う ③生徒の協働（協調）学習を取り入れた授業改善を行う	・習熟度別指導 ・発展学習講座 ・学年別学習会	・思考力、判断力、表現力が向上したと考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	普通科 81% 総合学科 74% <u>77%</u> B	成果：後期の生徒による授業評価でも、生徒は概ね「思考力・判断力・表現力が向上した」と考えている。自主的な学習を促すために、土日の学年別学習会を設定し、13回実施した。 課題：学年別学習会に参加する生徒を増やすこと。 改善策：適時性のある習熟度別学習課題を提供して学習会に併せて発展学習講座を企画し、校内での学習を強くよびかける。
	・ICT環境の整備と指導法の研究	・ICTを利活用した授業により、学習意欲が高まった生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>68%</u> B	成果：授業で、パソコン・実物投影機・タブレット等のICT機器を積極的に活用し、生徒の興味関心を高める工夫をする教員が増えた。 課題：ICT機器を活用した指導が、必ずしも生徒の学習意欲の向上に繋がっていないこと。 改善策：ICT活用推進担当者を中心に、学習意欲を高めるための教材研究について、校内研修を実施する。
	・生徒の能動的な学習を支援する指導法の研究	・授業改善により、学習指導のスキルが高まったとする教員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>83%</u> A	成果：先進校視察や各種研修会、相互授業参観等を通して、生徒の協働学習を取り入れたアクティブラーニング型の授業改善を進めることができた。 課題：授業改善により導入した生徒の能動的学習が、学習成果に結びついているかが不明瞭であること。 改善策：校内研修と授業改善を進め、同時に能動的な学習の評価方法の研究に努める。
学校関係者評価委員会評価	①学力の三要素である基礎基本の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学ぶ意欲をバランスよく育成しようとしている。多様なレベルの生徒に対する習熟度別学習の機会を設けたり、自主的な学習会を設定したりして学ぶ意欲を高めようとする工夫がなされている。今後、発展的な学習も取り入れる予定であり、その成果を期待したい。②主として学習意欲を高める目的で、ICTを有効活用する機会が確実に増えている。他方で、基礎・基本の習得や、思考力・表現力等の育成をめざしたICT機器活用の推進も期待される。③生徒の主体的・能動的な学習（アクティブラーニング）は、中教審答申の論点でもあり、現在の高等学校改革の鍵である。それは、単にグループ学習や発表をする機会ではなく、課題発見・解決型・探究型の学習がなされているかが大切であると思われる。その際、高校段階からグローバルな視点、多面的・多角的な視野、コミュニケーションスキルなどを育成することが期待される。他方で、パフォーマンス評価など高校でも注目され始めているが、教員の負担増にならぬよう慎重でありたい。総じて、重点目標2に関しては、学習意欲の向上と深い思考力のためにアクティブラーニングを取り入れようとしており、概ね満足な状況である。			
評価結果を踏まえた改善策	①学習会に併せて発展学習講座を企画し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ②ICTを効果的に利活用し学習意欲や思考力を高めるための授業改善に取り組む。 ③能動的な学習の評価方法の研究に努める。			

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
3: 人間力の育成 (普通科・総合学科の特性の伸張と協働) ①3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する ②生徒の主体的・能動的な活動により学校行事を活性化させる ③両科生徒が両科の行事へ相互に参加する	・3年間を見通した指導体制の確立	・入学当初の模試より模試成績を向上させた生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 ・第1志望の内定率が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	48% D 84% A	成果: 1年生普通科の基礎学力調査(4月と8月の比較)では、88%(116名中102名)の生徒が成績を向上させたが、全国模試(7月と10月の比較)では、成績を向上させた生徒の割合は48%(117名中56名)であった。 課題: 基礎学力の向上では成果が見られたが、思考力を伴う総合的な学力を伸長させる手立てが必要であること。 改善策: 習熟度別の指導を充実させるとともに、学習課題を精選して、各層の総合的な学力の伸長を図る。 成果: 3年生就職希望者の第1志望内定率は84%(55名中46名)であった。インターンシップをはじめとした、2年時の就職指導の成果が表れた。 課題: 1年生の段階から、働くことについての意識を高めていくこと。 改善策: 3年生が就職に至るまでの道のりを、プレゼンテーションや合格体験記などを通して伝える機会を設ける。
	・生徒の主体的、能動的活動を支援	・自分はTPOに応じて、適切な挨拶が A できている B ある程度できている C あまりできない D できない	A 31% B 61% A+B 92%	成果: 生徒の9割以上が「概ね挨拶ができています」と自己評価している。 課題: 「身だしなみ」や「マナー」を含めた「適切な挨拶」ができる生徒を増やすこと。 改善策: ①授業開始時と終了時の挨拶を教員側で徹底する。 ②身だしなみ・時間厳守・整理整頓等の指導を徹底する。
	・両科の特色ある取組へ相互に参加	・両科の生徒が協働して行事に取り組み互いを高め合うことが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 19% B 52% A+B 71%	成果: 学校行事では、両学科生徒が協働した取組を実施できた。また、総合学科の取組であるインターンシップに、普通科生徒が参加した。 課題: 両学科協働事業を充実させること。 改善策: 両科協働した取組の周知に努め、生徒の参加を促す。
学校関係者評価委員会評価	①昨年度は様々な取組が行われたのに比べ、本年度は、普通科では、入り口の3年間を見通した進路指導体制のスタートである1年時の学力分析を行い、基礎・基本の習熟の向上や活用力向上の難しさのエビデンスに基づく評価がなされている。総合学科では、2年時の指導の成果が表れ、3年生の第一志望内定率は8割を超え、市役所なども辞退するなどの活況を呈している。1年時からの意識の持たせ方を検討するなど、更なる成果が期待される。②結果を見るまでもなく、輪島高校生は身なり正しく・さわやかな挨拶をし、豪雪のさいには自主的な除雪活動を行っている。こうしたことが、授業や学校活動全体に自ずと広がっていくことが期待される。③普通科と総合学会を併設する全国でもめずらしい学校として、これまでも両科の相乗効果を意識した特色ある施策を打ち出している。これまでの実績に加え、普通科の生徒が総合学会の活動に参加するなど、両科生徒が協働する学校行事を考案している点が高く評価される。総じて、重点目標3に関しては、普通科・総合学科の特性の伸張と協働を通じた総合的な人間力の育成に関しては、概ね満足な状況である。			
評価結果を踏まえた改善策	①普通科、総合学科とも3年間を見通した指導体制を確立し、組織的な進路指導を実施する。 ②適切な挨拶ができる生徒を育成し、学校活動全体に活かしていく。 ③両科の特色ある取組への相互参加、生徒の主体的活動や能動的活動への支援を行い、学校行事の活性化を図る。			